

岡山大学環境理工学部
環境物質工学科同窓会 会報

Vol.4

2009年10月24日

Department of Environmental Chemistry & Materials

OKAYAMA UNIVERSITY

CONTENTS

	ページ
環境物質工学科同窓会 会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・	1
平成 21 年度 学科長からのご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・	2
研究室より・・・・・・・・・・・・・・・・	3
環境無機材料開発研究室	3
セラミックス材料学研究室	4
環境高分子材料学研究室	7
環境反応工学研究室	10
新任・着任のご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・	11
環境無機材料開発学研究室 准教授 亀島欣一	11
有機機能材料学研究室 講師 田嶋 智之	12
卒業生の声・・・・・・・・・・・・・・・・	13
1 期生 岩谷 友史	13
1 期生 羽鳥 信	14
2 期生 岡本 きょうこ	14
7 期生 井上 幸太	15
同窓会活動について・・・・・・・・・・・・・・・・	16
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・	17



環境物質工学科同窓会広報誌第4号を発刊するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

会員の皆様におかれましては、ご健勝でご活躍の程お喜び申し上げます。また日頃は同窓会活動に対して、ご協力を賜り誠にありがとうございます。心から厚くお礼申し上げます。

昨年10月の第3回環境物質工学科同窓会以降、様々な出来事が起こり、世の中が急激に変化したように感じております。

一つ目は、昨年末から始まった世界同時不況です。100年に1度という未曾有の不況で雇用問題をはじめ会員の皆様を取り巻く環境は大きく変化したのではないかと思います。

二つ目は今年の4月以降大流行が始まった新型インフルエンザ問題です。一時期はマスクや消毒剤が品薄になり日本中がパニックとなりました。その後収束に向かいつつあると思われたのですが再び流行が始まり、大学をはじめ各企業でも対策に追われているのではないかと思います。

このようないつ何が起きてもおかしくないという世の中で、同窓会の果たす役割は大きいのではと思っております。同窓会として様々な分野で活躍している同窓生同士のネットワークを確立して連絡できるような体制を作り、いつでも助け合うことができるよう努力していかなければならないと責任を感じております。

今年度は、全ての会員の皆様と連絡が取れるよう会員動向調査を「株式会社 サラト」に委託して本格的に行ってまいります。同窓会にとって一番重要である「会員全員と連絡が取れる」状態を早く確立し、同窓生全員が集える同窓会となれるよう努力してまいります。

会員の皆様におかれましても同窓会の活動を知っていただく為に同級生、先輩後輩に声をかけていただきたいと思います。

今後も日々一つ一つの活動を大切に、同窓会活動が大きく前進できるように努力してまいりますのでご理解とご協力をお願いいたします。



平成 21 年度 学科長からのご挨拶

平成 21 環境物質工学科学科長 教授 三宅通博

同窓会誌第 4 号に発刊にあたり、まずは世話役の方々に御礼申し上げます。会員の皆様におかれましては、ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

月日の経つのは早いもので、環境理工学部創立以来 15 年になります。また、岡山大学においては、創立 60 周年となり、種々の記念行事が開催されています。10 月 24 (土)、25 日 (日) には環境理工学部主催の記念事業 (24 日：環境関連の特別講演会、25 日：ホームカミング) が創立五十周年記念館で開催されます。ふるって参加頂ければ幸いです。

15 年の間に教員の顔ぶれは大きく代わり、発足当初の教員は数名になり、私がついに最長老になってしまいました。現在は 6 研究室体制で運営しており、各研究室は 15~20 名程度の学生の教育研究を担当しています。4 年前に環境工学分野で JABEE (日本技術者認定機構) を受審し認定されたことを機に、各研究室の教育研究は環境問題を意識した内容になり、名実ともに環境物質工学科になっています。また、独立法人化後の教育および研究に関する国立大学法人評価においても、環境理工学部ならびに環境学研究科は共に高い評価を受けました。しかし、我々教員は評価結果に甘んじることなく、環境化学分野の教育研究、人材育成に更に努め、環境物質工学科を発展させなければなりません。そのためには、同窓会の協力が是非必要です。同窓会は、会員数が 400 名を超え、渡辺会長を中心に世話役の方々の努力のお陰で、益々充実してきています。より多くの会員が情報交換できる有意義で魅力的な同窓会に更に発展することを切に希望しています。



研究室より

環境無機材料開発研究室

(HP <http://150.46.228.3/jyunkan-kogaku/index.html>)

【メンバー】

スタッフ：三宅通博教授、亀島欣一准教授、西本俊介助教

学生：博士後期課程 2名、博士前期課程 11名、学部4年生 8名

【研究紹介】

機能性無機材料の開発に取り組んでいます。クリーンエネルギー源である水素に関する研究（水素の生成・貯蔵・利用）を精力的に行っています。

キーワード：ゼオライト・ペロブスカイト・光触媒・廃棄物・水素貯蔵・SOFC・熱電発電・層状化合物・ソフト化学

【21年度前期研究室行事】

- ・花見（半田山）：例年どおり、バーベキューで盛り上がりました。
- ・スタート会：2003年から始まった手作り寿司パーティーも今年で7回目となりました。
- ・研究室対抗ソフトボール大会：予選敗退。
- ・前期中間報告会、大掃除、打ち上げ：充実した二日間でした。



花見



お寿司できました！（スタート会）



♪乾杯♪（スタート会）



皆でワイワイ！（スタート会）

セラミックス材料学研究室

(HP http://www.ecm.okayama-u.ac.jp/muki/index_j.html)

セラミックス材料学研究室では、ガラスやセラミックス材料の基礎科学の解明を通して、新しい機能をもった材料の創製や環境に調和したリサイクル技術の開発に関わる教育と研究を行っています。

教授 難波徳郎 准教授 紅野安彦 助教 崎田真一（環境管理センター）
 名誉教授 三浦嘉也 修士課程 10名 学士課程 7名

今年度から、環境省の循環型社会形成推進科学研究費による研究がスタートし、研究室が一丸となってリンの行方を追っています。鉄鋼スラグを起源とする分相ガラス中での存在状態を明らかにして、効率よく回収するプロセスを確立することが目標となっています。

もちろん、これまで継続して行われてきたガラスの構造解析、機能性ガラス・セラミックスの開発、環境対応型の耐火物に関する研究についても精力的に進めています。

それでは・・・

この1年、2008年9月から2009年8月までを難波研フォトアルバムで振り返りご報告します。

<p>9月</p>	 <p>お誕生日パーティー</p>	 <p>第6回無機材料国際会議（ドレスデン）に修士4名＋スタッフ2名が参加しました。何もかもがはじめての経験でしたが、帰路でのトラブルにもめげず、少しは立派になって帰ってきました。聖母教会からの景色を堪能した2人。</p>
<p>10月</p>	<p>再スタート会 これが遅かったと思うのです。</p>	
<p>11月</p>	 <p>恒例、日本シリーズ鍋。 負け組み鍋はとってもヘルシー。</p>	 <p>ヤンセラ（広島大） 初々しい学会発表ですが、とってもリラックス。</p>
<p>12月</p>	 <p>サッカー大会</p>	 <p>忘年会</p>

<p>1月</p>	 <p>年明け早々、四国へのゼミ旅行でした。</p>	<p>今年は、山陰地方を巡る旅が計画されています。</p>	
<p>2月</p>	 <p>フランスから一時帰国された間野さん(物質4期)にご講演いただきました。先輩のメッセージは伝わったかな？その後、鳥好にて。</p>	 <p>身振り手振りで質問をかわす修論発表会。</p>	
<p>3月</p> <p>卒論発表会 謝恩会 追いコン 卒業式・学位授与式</p>	 <p>謝恩会にて</p>	 <p>セラ協年会(東京理科大)では、修士5名と4年生1名が研究発表しました。何故かここに写っていないS村くんが・・・(6月へ続く)。</p>	
<p>4月</p>	<p>難波研の春は、半田山でのお花見から。</p>  <p>天ぶら(松木)を待つ人々。</p>	<p>ピオーネオープン 入学式 スタート会</p>	 <p>硝子屋体験。4年生は初めてガラスを作製します。トングの持ち方が違ってきますけど。</p>
<p>5月</p>	 <p>レンガの粉にまみれての辛い作業ですが、電気炉の補修も硝子屋としての大切な修行です。</p>	 <p>初めて作ったガラスは、大抵、変な形。</p>	

6月

年会優秀ポスター発表賞
優秀賞を受賞しました。
ある日突然、表彰状が郵
送されて、ビックリ！



ソフトボール大会優勝
しました。副賞でビア
パーティーへ。

7月

そして、7月17日・・・
ひとつの歴史が幕を閉じました。

みどり食堂の閉店を惜しみ、多くの
三浦研、難波研のOB達が駆けつけ
ました。



たこ焼き・餃子・ビアパーティー



みどり食堂様

長い間、お世話になりました。

8月

オープンキャンパス
ガラス部会若手セミナー
院試



高校生に出来たての色ガラス玉をプレゼント。
化学の面白さを伝えるのは難しいのです。



環境高分子材料学研究室

(HP <http://www.ecm.okayama-u.ac.jp/kobunshi/index.html>)

人間を含めた自然環境の進化の歴史は、高分子が持つ三次元的な多様性に基づいているといっても過言ではありません。当研究室では、高分子が関与する化学と物理の協奏する魅惑的な世界で、全く新しいコンセプトの重合法の確立や構造と物性に関する研究に取り組み続けています。

研究室の現在

1. メンバー紹介



教授：木村邦生

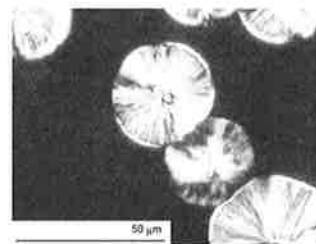
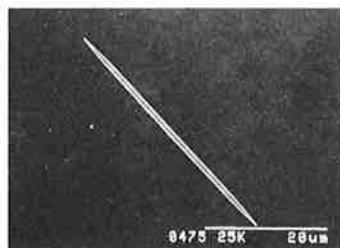
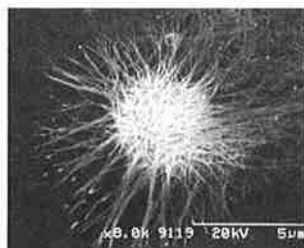
一言：皆様お元気にお過ごしでしょうか。天候不順や新型インフルエンザなど地球規模で何かが狂い始めている、そんな予兆でしょうか。私は山崎先生や研究室の皆さんと楽しく研究生活を送っております。が、時間が経つのが非常に速いと感じる今日この頃です。スローライフに多少の憧れを抱きながら、クイック・クイック・スロー程度のライフスタイルを目指します。



准教授：山崎慎一

一言：私が岡大に着任して、早5年が経過しました。この間、木村先生や多くの優秀な学生さんに支えられて、研究を進めることができました。高分子学会の研究奨励賞受賞（平成18年度）やNYへ研究留学させていただいたことも、皆さんのおかげです。これからも、「あの研究グループはひと味違う！」と唸らせるような研究に取り組んでいきたいと思っています。物事の本質を見極め、その中から何か新しいことを見つけ出すために、皆さんと一緒にがんばっていきます。

博士研究員2名、大学院生9名、学部4年生8名（2009年8月現在）。



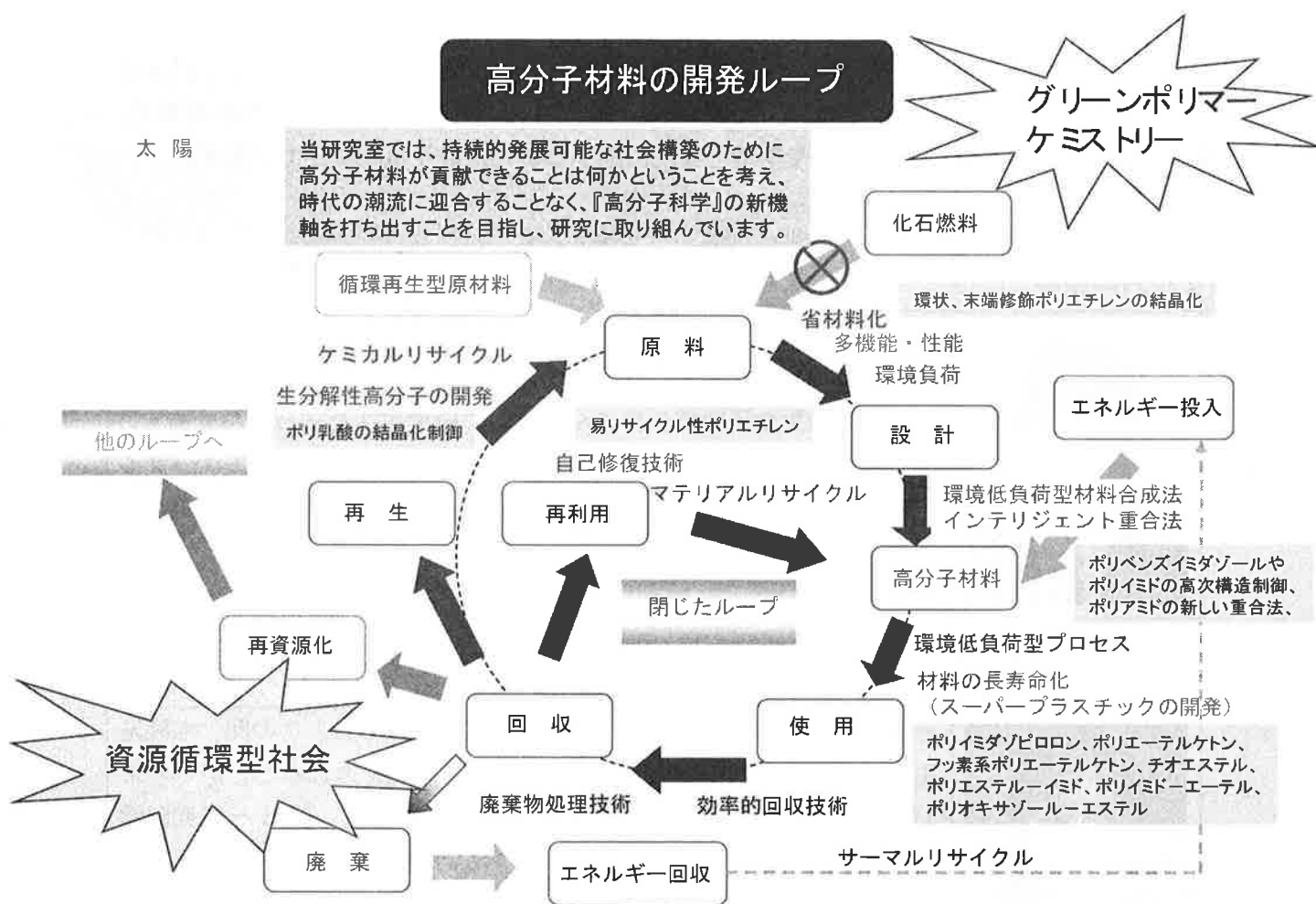
最新情報はホームページを参照してください。

URL : <http://www.ecm.okayama-u.ac.jp/kobunshi/index.html>



QRコード

2. 研究紹介



現在進行中の主なテーマ

- ①ポリイミド、ポリベンズイミダゾールの高次構造制御
- ②ポリアミドの連鎖重合、ケモセレクトティブ重合
- ③フッ素系ポリエーテルケトン、チオエステルの合成
- ④芳香族コポリエステル、イミド、エーテルの高次構造制御
- ⑤ポリ乳酸の流動誘起結晶化と高次構造制御
- ⑥易リサイクル性ポリエチレン樹脂の開発
- ⑦環状・末端修飾ポリエチレンの静置下及び流動誘起結晶化



学会・論文発表

国内：高分子年次大会、繊維学会年次大会、高分子討論会など

国際：International Discussion Meeting on Polymer Crystallization 2009

The 10th Asian textile conference など

欧文誌：Macromolecules, Polymer など

和文誌：高分子論文集など

3. 研究室の声

山下祐彦 名誉教授

今でもご多忙のなか、夏の間発表や年度初めのお花見、ゼミ旅行などといったたくさんの行事に参加して頂いています。研究に対してはもちろん厳しく、でもお酒の席では笑顔の絶えない先生は、退官されてからも研究室にとって、とてもとても大きな存在です。これからもお変わりなく、たくさんの行事に参加して頂きたいです。

木村邦生 教授

我が研究室のボスです。最近の先生は私たち学生から見ても大変忙しくされていて、少し心配もありますが、そんな先生は日々の仕事はもちろん、学生とのコミュニケーションにも手は抜きません。毎週ある研究の進捗報告会では、学生にわずかでもスキがあるとすかさず先生からのツッコミがあります。やはり大阪で培ってきた先生は持っているものが違います、笑いをバンバンかつさらっていきます。研究に対するアドバイスをしつつ、ウケもしっかりとる先生には誰も太刀打ちできません。飲みの席では博士研究員の若林さんや宮さん、学生をいじって笑いを取っておられますが、それは名誉教授の山下先生にまで及びます。さすがはボスです。

山崎慎一 准教授

学生に対してとても面倒見のいい先生です。よく学生の部屋に顔を出して下さり、研究や講義のこと、スポーツのことや色々な娯楽についてなど様々な話をして下さります。研究については、行き詰った時も親身になって次の手を一緒に考えて頂け、講義についても学生が考えてできるようなアドバイスを下さります。スポーツは特に野球が大好きで、この前に行われたソフトボール大会では打って守ってと大活躍で、他の研究室の人から、「年齢制限を付けて欲しいくらいだなあ(笑)」と言う声が出る程でした。娯楽については学生が好きなものは一通り経験されているので(具体的には山崎先生に伺って下さい(笑))、会話が自然と弾みます。飲み会では2次会や3次会にも積極的に参加をして下さり、学生と一緒に楽しんで下さります。色々な相談をすることができる、とても親しみやすい先生です。

<研究室行事>

年度初めのお花見、研究室内バレーボール大会、学科内ソフトボール大会、ゼミ旅行、学科内サッカー大会など、様々な行事があります。



2008.9 ゼミ旅行にて



2009.6 ソフトボール大会にて

環境反応工学研究室

(HP http://www.ecm.okayama-u.ac.jp/reaction_engineering/azhar/top.html)

准教授：Md. Azhar Uddin、特別契約職員教授：仲辻忠夫

博士課程 1 名、修士課程 8 名、学士課程 7 名

1. 研究紹介

昨年度末で笹岡教授が退官され、今年度からアズハ研究室として始動しました。今年は 4 年生 6 人が配属され、一同真剣に毎日研究と向き合っております。

本研究室では環境に適した循環型社会を構築するために、炭素資源の循環利用技術（グリーンハイドロカーボンサイクル）や、その際の環境への負荷をなくす技術（グリーントウン用環境保全技術）の開発の研究を軸とし、そのための触媒・固体吸収剤の開発などを中心に研究を行っております。

2. 研究室の声



『ゼミ旅行』

毎年夏には二泊三日のゼミ旅行に行きます。昨年は山口県に行きました。秋芳洞でひんやりと涼み、サファリパークで動物を間近で見ではしゃぎ、市場で海の幸を美味しく頂きました。



『BBQ』

毎年恒例の BBQ が旭川の河川敷で行われました。退官された笹岡教授にも参加していただき、お肉はもちろんのこと、笹岡教授自信作のたまねぎ等もとても美味しくいただきました。天気のいい日の BBQ は最高です！



『笹岡教授退官記念パーティー』

昨年度まで我が環境反応工学研究室を引っ張ってくださった笹岡教授が退官され、退官記念パーティーが盛大に行われました。厳しくも優しい、愛情に満ち溢れたご指導を、今までありがとうございました。



『球技大会』

昨年度のサッカー大会、今年度のソフトボール大会共に準優勝という結果でした。チーム一丸となり、声を掛け合いながら頑張りました。次こそ優勝！



新任・着任のご挨拶

環境無機材料開発学研究室 准教授 亀島欣一

平成 21 年 4 月 1 日付で、環境無機材料開発学研究室の准教授に着任致しました亀島欣一でございます。宜しく御願い申し上げます。

岡山大学に赴任するまで、学生時代を含めると 20 年余を東京工業大学で過ごし、無機材料に関する研究を進めてまいりました。

すでに着任より 4 ヶ月が経過しておりますが、三宅先生をはじめとする学科の諸先生方の仕事を拝見致しますと、今の自分が学に乏しく、経験も浅く、人としての魅力にも欠けていることに日々気づかされます。

しかし、自分なりに（名は体を表すの言葉通り）ゆっくりゆっくりではありますが、学科の先生方や学生と一緒に、苦しみ、失敗し、勉強しながら、前向きの姿勢で仕事を進めていきたいと思っております。大学の第一の責務である、教育と研究を通じた人材育成に努め、それらを通じて微力ながら学科の発展に少しでも寄与できればと考えております。

今後とも、宜しく御願い申し上げます。

平成21年4月1日付けで、有機機能材料学研究室（高口研究室）の講師に着任いたしました田嶋智之と申します。着任にあたり、自己紹介を含め簡単にご挨拶申し上げます。

私は長野県松本市に生まれました。そのため、大学は地元の信州大学に通いました。岡山大学も岡山近郊の出身の学生が多いですから、おそらく大学の環境としては良く似ているかな？と思います。私は大学時代、決して優秀な学生ではありませんでした。しかし、研究室配属された後、研究というものの楽しさと素晴らしさに感動し、化学の世界に熱中してしまいました。その結果、平成12年3月に信州大学繊維学部を卒業後、信州大学大学院工学系研究科に進学し、平成14年4月には京都大学大学院理学系研究科博士後期課程に進学しました。学位取得後は、埼玉大学、名古屋大学、京都大学と異動し、本年度から岡山大学に着任致しました。故郷の松本からどんどん西に異動してきたこともあり、暖かい冬に慣れてしまったため、最近では故郷の信州の冬の寒さに弱くなってしまっています。

専門は、これまで一貫して有機化学についての研究を行なってきましたが、博士課程以降の研究はケイ素や硫黄をはじめとする有機典型元素化合物、および有機金属錯体に関する研究を行なってきました。これらの分野は国内では有機化学として位置付けられていますが、実は海外では無機化学としてとらえられています。そのため有機化学や無機系の学会に参加してきましたが、自分としては、有機・無機という枠ではなく、新しい分子を創出し、その性質を利用しようという「分子に対する化学」を研究してきたと思っております。

まだまだ未熟で不慣れな事も多く、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、教育面では学生が自ら学ぶための手助けを、研究面では大学でしかできない様な「なぜだろう？」という環境、物質、化学、およびそれらの性質や現象に対する疑問に対して迫っていける研究を、精一杯頑張っていますのでよろしくお願い致します。

最後になりましたが、このページを読んでいる岡山大学環境理工学部 環境物質工学科の同窓会の皆様のますますのご活躍とご多福をお祈りし、私の新任のあいさつを終わらせて頂きます。



卒業生の声

1期生 岩谷 友史

大学を卒業してから、もう10年が経過しました。当時を振り返ってみると、1期生として環境物質工学科に入学して、同期の皆と学生生活を満喫した事、何とか単位を確保する為に、眠い目をこすって授業に行った事、試験前に皆で集まって徹夜でワイワイ勉強した事を思い出します。

環境理工学部棟が完成するまでの間、赤レンガの建物の中で実験装置を組んで実験した事、今思えば有り得ないのかもしれませんが、非常に良い思い出となっています。

大学を卒業してからは、石鹼・洗剤メーカーで製造・技術の仕事をした後、現在は、三菱化学（水島事業所）で化学プラントの運転担当をしています。

卒業してからの5年半は、「ものづくり」という視点で、製造・生産管理・品質管理などの仕事をしてきました。さらに、技術輸出として、海外工場（タイ）の立ち上げにも携わる事ができ、1年間現地で生活した事も自分の財産となっています。

もっと大きなプラントで仕事がしたいと考え、3年前に三菱化学へ転職しました。数ヶ月の3交替実習を経て、現在は、運転担当という立場で仕事をしています。運転担当とは、プラントの安全・安定運転はもちろんのこと、日々の運転トラブル対応、生産管理や実績解析、プロセスや設備の改善、合理化や省エネ検討まで、何でもやらなければなりません。

入社前は、化学プラントは連続運転であるので、全然手が掛からないだろうと安易に考えていたのですが、入社してビックリ。プラントは日々変化しており、その状況を把握して早急に対応していかなければならない事を身をもって体験しました。プラントには様々な技術やノウハウが詰まっており、過去から現在に至るまでのあらゆる経緯を知らなければ、真のプラントエンジニアにはなれません。過去の検討書やトラブル報告書を読んだり、まだまだ勉強の毎日です。自ら考え、より効率の良い仕組みを作り出す事で、コスト削減ができ、身をもって成果を実感できる仕事に、やりがいを感じつつあるところです。



北村研究室配属（赤レンガ前）



タイ（アユタヤ）で象と一緒に

1期生 羽鳥 信

皆さん、お久しぶりです。

2001年3月に大学院の修士課程を修了して以来、愛媛県の松山にある三浦工業で働いています。三浦工業はボイラの会社ですが、今後、水処理にも力を入れていく方針で、自分も水処理のセクションで働いています。以前から水処理装置は扱っていたため、純粋な事業の立ち上げとは違いますが、やりがいのある仕事だと感じています。

話は変わりますが、2ヶ月程前(7/6)に子供(一人目、男)が生まれました。妻が「あまり痛くなかった」というくらいの(うそでしょうけど)安産でした。

自分は群馬県が実家で、盆と正月には帰っていますが、飛行機代が高くて嫌になっています。必死にマイルを貯めています。盆・正月はハイシーズンとか言って余分にマイルが要るし、何か最近、特典航空券の予約枠って少くないですか？予約が本当に取れん。(あ、興味ない?)学生の皆さん、実家が近いところに就職するのはいいよ。子供ができたりすると。

以上、近況でした。



2期生 岡本 きょうこ

2000年に岡山大学を卒業し、早いもので、もう9年が経ちました。自分としては当時と何も変わっていないつもりですが、このような会報誌にコメントを書かせて頂くことになると、確実に時が経っていることを実感します。

卒業後は、三菱総合研究所にて、環境・エネルギー分野での研究員をした後、現在は、人材開発分野でのコンサルティングをしています。

研究員時代は、環境省や経済産業省が環境・エネルギー分野の法制度を策定する際に、方向性を提言したり、バックデータを整理したりする業務が中心でした。元々、環境という分野で世の中に対して影響力のある仕事がしたい、という思いからこの仕事を選びました。当然、日々、途方もなく大変な事や挫けそうな事は山のようにありました。でも、自分自身が関わったプロジェクトが、法制度や法改正という形で世の中に打ち出されていくことがやりがいでした。

3年前、自分自身のキャリアを考え、転職をしました。全くの異業種への転職だったので、不安もありましたが、日々、新しいチャレンジが沢山あり、成長している！と実感しています。

私は、「働く」とは、「仕事を通じて社会に貢献すること」だと思っています。どんな仕事をするかによって、もちろん貢献の仕方は異なりますが、今後、如何なる仕事をするとしても、そのことを忘れず成長し続けたいです。



7期生 井上 幸大



①本社での二ヶ月間の研修、京都府舞鶴市にある工場にて四ヶ月間の現場実習を終えて、そのまま舞鶴の工場に配属しました。今現在は自動車用ガラスの素板（加工前のガラス）製造ラインにて、ライン管理・維持の仕事に就いています。現場の作業員の方々と共に、品質改善・コストダウン・安全性の向上といった様々な課題に日々チャレンジしています。

700メートルもある製造ライン内を一日中動き回ったり、時には1600度の窯の側で汗だくになりながら作業をしたりと、体力的にきびしい職場ですが、自分の仕事の成果が直接利益に繋がっていくため、達成感を得ることを楽しみに毎日を過ごしています。今後も一人前の技術者になるために日々精進していきます。

②学生時代は友人に恵まれ、岡山大学での6年間をととても楽しく、有意義に過ごすことができました。特に学生生活にしかない長期の休みを利用して、原付で四国と九州を一周したことはとても印象に残っており、まとまった休みを取れない今となってはとても良い思い出になっています。また大学生活の半分を占めた研究室生活では、お世話になった教授から「自分から学ぶということの大切さ」、「達成することの楽しさ」を学ばせていただきました。このことは社会に出た今でも大いに役に立っています。

大学で経験したこと、学んだこと、そして友人はきっと一生ものだと思います。限られた時間しかない学生生活ですが、みなさんも色々なことにチャレンジし、遊びも勉強も大いに楽しんでください。



同窓会活動について

○環境物質工学科同窓会

- ・第3回環境物質工学科同窓会 総会・懇親会が行われました。(平成20年10月11日)



同窓会 総会 (環境理工学部内講義室にて)

○環境理工学部同窓会

- ・第2回環境理工学部同窓会役員会が開催されました(平成20年11月28日)
- ・「水循環施設の支援」として環境理工学部同窓会から記念樹植樹5万円程度を寄付することとなりました。
- ・環境理工学部同窓会HPが開設されました。

URL <http://www.okayama-u.ac.jp/user/est1/index.html>

○岡山大学同窓会

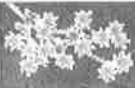
- ・平成21年度岡山大学同窓会総会が開催されました。

詳しくは岡山大学同窓会HP (<http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~dousou/>) をご覧ください。

- ・Gmailアドレス(生涯メールアドレス)が提供されています。

退職職員およびH21年2月以前の正規卒業生については手続きが必要です。

詳しくはHP (<http://www.okayama-u.ac.jp/user/cc/gmail/reg/index.html>) をご覧ください。



環境物質工学科同窓会も現在の体制になってから4年が経ちました。

世話役として、なかなか体制づくりが出来ていないことを反省し、申し訳なく感じています。

今回の会報誌第4号を発刊するにあたって連絡不足のため今まで続いてきた1期生から下級生への持ち回りのたすきを途切れさせてしまいました。このままの状態が続けばまた同窓会の活動が滞ってしまうのではないかと不安になってしまいました。

そんな中、今回ご協力いただいた方々は快く依頼を受けてくれました。そして卒業生の中の一人のメールには「楽しかった学生時代が昨日のこのように思い出されます。」という一言が付け加えられていました。本当に嬉しかったです。

このように環境物質工学科で過ごした日々を思い出してくれる方がいる限り同窓会活動を途切れさすことは出来ないと責任の重さを再確認しました。

環境物質工学科同窓会の会員の方はまだ若く仕事に私生活に忙しい時期を過ごされている事と思います。しかし、その中に少しでもよいので同窓会活動へ参加する時間を割いていただければと思います。会員の皆様全員の少しずつの協力が境物質工学科同窓会を盛り上げ、支えていくと思っています。

今後も環境物質工学科同窓会が「楽しかった学生時代」を全員で語り合える場所になる日が来るのを願いながら努力して参りますので、ご協力お願いいたします。

最後になりましたが、会報誌第4号を作成するにあたり、ご協力いただいた皆様に深謝いたします。

環境物質工学科同窓会 会長 渡辺晃正



岡山大学